東京八王子プロバスクラブ
創立1995.10.18

プロバスだより
第136号

編集・発行・情報委員会
発行日　2007.3.8

http：//www.tokyo-hachioji-probusclub.jp

2006・7～2007・6 テーマ『豊かさを求めて　プロバス・ライフを楽しもう』

第136回例会

日時：平成19年2月8日（木）12:30～14:30　場所：八王子エルシィ
出席者：57名　出席率：86%　（会員総数67名　休会1名）

1．下田例会委員長の司会で開会

2．濵野会長挨拶

皆さん今日は。2月の例会出席率が良いのは義理チョコのお蔭かなと思っています。本日も東京八王子南ロータリークラブから会長・副会長・幹事の御三方に来ていただき有難うございます。さて、いよいよ今月22日から我々の第11回生涯学習サロンが開催される運びとなりました。先日の理事会で実行に当たっての細部の詰めを行いました。本日は委員会ごとにテーブルを設定させて頂いておりますので、その中で更に細部につき徹底して欲しいと思っております。

当日は、八王子市長とNPO法人八王子市民活動協議会理事長のご出席を予定しております。それから、本日の例会の議事次第が配られていますが、特記事項で4月12日のところで「例会は4月26日に変更」と書かせていただいております。これは、当日「野外で楽しむデジカメ講座」が企画されていて、この集合時間が13時立川市の昭和記念公園となっております。その関係で例会の実施に支障が生じました。この点の不注意は、我々の責任でございますので、お詫びすると同時にご了解をお願いしたいと思います。

また、サロンの開催中は、現在12時から開催しております例会の開催時間を11時半からに変更させて頂きたく合わせてお願い致します。

最後に、お手元に配られました『父へ－50年目の手紙－』を先に一冊お借りして私なりに読ませて頂きました。戦争により父を失った母子家庭が、混乱した戦後の世の中を如何に生きたかと云うことを、私の身内の母子家庭と重ね合わせて読ませて頂きました。読後感として色々な感想があると思いますが、当時の近隣の人々の心の温もりと云いますか、温かさがあればこそと云う感想を持った次第です。是非皆様もご一読願いたいと思います。

3.来賓紹介と挨拶

東京八王子南ロータリークラブ　会長　廣瀬武彦様　副会長　加賀谷惠様　幹事　西小野道徳様

廣瀬会長挨拶：今日は、前田真三さんの写真展を紹介させて頂きます。私は八王子工業高校の同窓会長をしていまして、3月2日に創立120周年の記念式典があります。それに合わせて同校出身の前田さんの写真展を同窓会主催で「八王子市いちょうホール」にて開き、3月4日から25日まで無料で一般公開します。

（前田氏は詩情豊かな作風で、北海道の「丘」をテーマとした作品群で風景写真に一時代を画した人）

西小野幹事：こんにちは。先ほど、濵野会長より感想を聞かせていただき嬉しく思います。本日は皆様に『父へ－50年目の手紙－』を配らせて頂きました。この著者が鵜沼万里子さんという方で、このお父様が、万里子さんが生まれる前に沖縄戦で亡くなられまして、結局、親子は対面していない訳ですが、終戦後50年経って、この方から父へ手紙を書いたものです。鵜沼さんと私は同じ町内会と云うことで、この本を紹介させて頂きました。

4．幹事報告（鶴田幹事）

1）いよいよ、生涯学習サロンが迫って参りました。年度初から着々と、地域奉仕委員会をはじめとして、各委員会が共々一致結束して、準備をしてこられました。今は最後の詰めで、苦しい時期でもございましょうが、皆様のご協力を頂きまして楽しいサロンになりますよう、また、初めて参加されます方もお見えになりますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。また、先ほど濵野会長より生涯学習サロン開催期間中の例会の時間変更等ございましたが、3月8日と4月26日の例会の日には朝の食事を何時もより軽く取って頂きまして、11時半からの例会で、食事をして頂き、卓話も計画しておりますので、くつろいでいただきますよう重ねてお願いいたします。

2）八王子市民活動協議会が年６回偶数月に発行の機関紙「協議会だより」2月1日号の新規加入団体紹介の項に当クラブが紹介されました。

また1ページには、「お父さんお帰りなさいパーティー」という団塊の世代を対象にした催しが、2月24日に、南大沢市民センターであります。濵野会長と聴きにいく予定です。この記事をお読みになり、皆様の中で是非聴きたい方がおりましたら申し出て下さい。

奇数月に発行されている「市民活動通信」には、矢崎地域奉仕委員長が生涯学習サロンの案内を１月号に掲載依頼して頂きました。「協議会だより」は各団体に配布され、「市民活動通信」は市内の駅、各市民センターなど公共施設の広報スタンドに配布されています。広報活動の一環として認知度の向上に根が張って行ければと願っています。

3）**会員の自主的活動**：濵野会長の母校東京農工大学にて繊維研究会のサークル作品展を開催、期間2月16日～22日濵野会長も生涯現役で繊維博物館所有の豊田式自動織機などの動態化に専念。

松尾会員が1月、浅川婦人の会にて講演、3月6日東京多摩ロータリークラブで卓話の予定。

5．**各委員会報告**

1）**例会**　下田委員長：本日の例会の出席者は57名、欠席者は9名、出席率は86％です。本日のメインテーブルには７代の石井實会長にお願い致しました。また例会資料の特記事項で、サロン開催中のスケジュール、日時の詳細を記載しておきましたので、確認して頂きたいと思います。

2）**地域奉仕　矢崎委員長**：全員の方に第11回生涯学習サロン担当者一覧表を配らせていただきました。話し手の方は最後の欄の使用機器の確認をお願いします。司会の労をとっていただく方もよろしくお願いいたします。今月の22日にスタートを切るのですが、現時点では、サロンの一般参加者は70名参集いただけることになりました。司会者はサロン開始の一時間前に集合をお願いいたします。それから、配りましたサロン受講証の裏に、どの講座を受講するか○が付いていますが、一般会員を優先しますので、希望の講座を受講できない場合がありますがご容赦いただきたいと思います。

3）**情報　荒委員長**：先月号のお宝大会の記事をご覧になった、全日本プロバス協議会の吉川様から礼状を頂きました。お宝を通じて皆様の人柄に触れ感動なさったのではないかと思います。（135号3頁参照）

4）**会員　澤渡委員長**：今月は新入・退会会員ともにありません。今日現在の会員数67名（休会1名）

5）**研修　米林委員長**：特になし

7．**同好会報告**

1）**ゴルフの会　小林(貞)代表**：次回のコンペに付き概要を報告します。春と秋、年2回予定しています。

今年の春の大会は5月17日（木）、場所は山梨県上野原市の『レイク相模カントリークラブ』を予定しています。

６組24名です。具体的には来月の例会で詳細をお話しします。また、第2回の南ロータリークラブとの合同コンペも計画したいと思いますが、これも次回に報告します。

2）**歴史の会　澤渡会長**：１月18日第５回を八王子郷土資料館で行いました。30名の参加を頂き有難うございました。今後の予定ですがサロン開催中ですので中断いたします。各自で勉強してください。

司会：今度、図説八王子の歴史が発刊されるようですので、これを購入して勉強しようと思っています。

8．**卓話　石田文彦会員（次頁掲載）**

9．**その他**　委員会別打ち合わせ

10．**プロバスソング斉唱**

11．**閉会　宮崎副会長挨拶**

22日から生涯学習サロンが始まります。毎年、話して頂く方、また、熱心に応募で来られた方々に聴いて頂きます。一つ、無事に5月の最後のさよならパーティーまで頑張って頂きたいと思います。（例会記録長谷川貫訓）

卓　話　　「中国における高等教育の現状」

石田文彦　会員

中国では、将来のリーダーをどの様に育てているのか簡単に紹介します。

中曽根内閣が「留学生10万人招聘計画」を打ち出して以来、－日本への留学生の65％は中国人で、韓国人・台湾人等と合わせるとアジア人が90％を占め、欧米からは殆ど来ません－私どものところ(上越教育大学大学院)にも中国人留学生が押し寄せて来ました。彼等の修士論文を指導する必要に迫られて、最近10年間は毎年のように中国に行っています。私が中国で会うのは主として大学の教官と学生ですが、彼等との交流で得られた知見を基に、中国の高等教育の現状を日本と比較しながら述べます。

中国の教育部（日本の文部科学省に相当）の2005年のデータによると、大学数は2,237校（日本1,214校）であり、4年制大学・2年制短期大学・成人大学からなり、２年制短期大学は日本の専門学校に相当し、成人大学は社会人を職業訓練しています。日本では81％が私立大学ですが、中国はほとんどが国公立大学です。大学生数は2,300万人（日本308万人）であり、その内1,562万人は4年制大学生ですが、世界一の学生数です。進学率は21％（日本52％）であります。

入学試験は国家による共通試験で、6月7日～9日の3日間に亘り筆記試験を行い、科目は国語・数学・外国語プラスαで、αは、例えば理系学科では物理・化学等であります。試験は一発勝負であり、一流大学に合格するには90％の成績を必要とします。2005年度の入学者数は697万人であり、前年度より57万人増加しています。国民総生産高GDPと同じように、入学者数は毎年10％近く増加しています。このために大学の増設が追いつかず、教室はすし詰め状態です。一方、日本の入学者数は70万人ですが、少子化で毎年減少しています。従来、大学の授業料は無料でしたが、1989年から受益者負担となり、入学者が負担することになりました。授業料は約5,000元（約75,000円）ですが、農村部の平均所得は3,254元ですので、農村部からの進学は経済的に困難になりました。全人口13億人の内、9億人は農民ですが、沿岸部の中流家庭以上の子弟しか大学に入れないという格差問題が生じています。

大学の管理体制ですが、学長や学部長は教育部が選出します。日本では、従来、教官の選挙で学長を選出していましたが、大学が独立行政法人化されて大学理事会が決めるようになりました。但し、教官は日中とも教授会で選出されます。各大学に共産党委員会があり、その委員長に当たる書記は、行政官としては学長より上席であり、国家・共産党が大学を管理しています。日本の大学でも、事務局長は文部科学省から派遣され、学長を補佐し事務官を統括していますが、大学は国家権力から独立しています。中国では学長や学部長の多くは共産党員ですが、教官は共産党員が少なく、日本と同じように研究・教育を自由闊達に行っています。とくに、日本の大学と異なるのは、大学の敷地内に学生、および教官と職員とその家族が一緒に住んでいることです。従って、大学内に学生寮の他に、教官と職員の宿舎、その子弟のための小・中・高等学校、病院やスーパー等があり、大きな大学では敷地内に５万人ほどが住み、学長は市長のような役割をしています。

ここで、中国の政治体制を概観します。政治運営の最高機関は共産党の中央政治局常務委員会であり、9人の委員による集団指導体制がとられています。国家を代表する主席は、この委員会の委員長であり、また共産党総書記(共産党員7,000万人のトップ)であり、中央軍事委員会主席(人民解放軍282万人のトップ)でもあり、共産党と軍を掌握することにより権力を維持しています。ところで、中央政治局常務委員会委員の9人は全て工学部出身であり、その内、主席を含む4人は清華大学出身であります。中国の官僚は理工系出身者が多く、学生も理工系志望が強く、技術者は人気の高い職業であります。日本も昭和30年・40年代の高度経済成長の時代には、理工系が尊重されていましたが、社会が豊かになるとともに、アメリカのように学生の理工系離れが起きてきました。アメリカでは、技術者不足を補うために、MIT・スタンフォード大学・ハーバード大学等の学長クラスの人が、清華大学のような一流大学に留学の勧誘に来ます。例えば、清華大学では学部卒業生の80％は米国の大学院に留学するようで、頭脳流出が問題化されています。学生は上昇志向が強く、勉学に貪欲であり、例えば、日本では教室は後ろの方から席が詰まりますが、中国では前列の席を取るために一時間も前から廊下に並び、講義の後は教官に質問するために列が出来るほどです。

昨年11月、北京に行きましたが、オリンピックを成功させようと国家の総力を挙げており、43年前の東京オリンピックの時と同じ活気を呈していました。中国はオリンピックを契機に一層国力が増大し、国際社会での地位もさらに高くなっていくであろうと感じました。

新春座談会

新たな10年に向けて

日時　平成19年1月11日　14：30～16：30　場所：八王子エルシィ

出席　大野聖二(初・10代会長)　石井 實(７代会長)　立川冨美代(８代会長)　大髙 秀夫(９代会長)
濱野幸雄(現会長)　宮崎浩平(現副会長)　司会　鶴田金通(現幹事)　記録　情報委員会

司会：今日は、お忙しい中お集まりいただき誠に有難う御座います。つきましては、第１代会長から第5代会長での座談会が5周年記念誌に掲載されていますが、10周年を経過した今年度は新たな10年に向けての初年度でもあり、その後の会長方にご出席頂き、我々クラブはどんな方向に進んでいくのか、プロバスクラブに入ったらどんな楽しみがあるのかなど、将来の礎となりますようなものを語り合っていただきたいと思い企画しました。

クラブ設立の趣旨

司会：先ず基本的なことをお伺い致します。現在の会員数は67名です。設立時33名でスタートされたと聞いていますが、そのチャーターメンバーも現在14名で、5周年以降に入会された方々が半数を占めています。全会員が同じ価値観や、共通の認識を持ってほしいというようなものがあれば、継承していかねばなりません。日頃お考えになっておられるようなものがあれば、お話を賜りたいと思います。

大野：設立準備の頃、折角クラブを設立するのだから、単に親睦だけを目的とするのではなく、何か社会的に意味あることをしようという意見が多く、地域社会に奉仕することを目的としました。その後いろいろ模索した結果、人生経験豊富な我々にふさわしい活動は、生涯学習サロンの開催ということになりました。運営するのは大変ですが、これは皆で話し合って決めた「知的貢献」です。

石井：当クラブの会則「目的」には、他の多くのクラブに見られるような「親睦」という文言はありません。

司会：おっしゃる通り会則には書いてありませんが、設立趣旨には書いてあります。

石井：そうです。会員間の親睦を図ることは当然のことであって、その上に目的があるのです。当クラブは単なる和気藹々とした仲良しクラブを指向するものではありません。「親睦」が一人歩きすることを懼れた訳です。さらに、当クラブも組織なのですから、組織の原則は守らねばと考えます。

生涯学習サロンの進化

司会：過去の各年度の運営方針を見ると、会員活動の活発化、相互交流が言葉を変えていろいろ出てきます。例会形態の改善、サークル活動の奨励活発化などとなり、さらに全員参加で事業を展開するとして、生涯学習サロンに取り組んでいます。学習サロンも、一層の充実、更なる充実、魅力あるサロンの継続、そして濱野会長はサロンの進化を掲げました。

濱野：いや、このテーマを掲げた時から，進化とは何ぞやと責められていて、まだ結論はでてないですが、サロンに参加される方が楽しく、満足して頂ける事を第一に考え、講座が連続する中で、第7回からの井戸端会議、第10回のパネルディスカッションなどと新しい発想と手法を加えて行ければと思っている。

立川：私は10年間同じ音楽のテーマで講座を続けていますが、毎年これでいいのかと自問自答しながら、聴いて下さる人がいる限り、何とか新しい手法を考えながら取り組んでいる。

濱野：そうですね。そこで今年は、平原さんと立川さんとで、週を別けて2つ音楽講座を設けていて、それぞれ別の、こんな見方があるのだということが分かるような形に変えていますよね、これも進化ですね。

石井：進化は難しいですが、10年繰り返していると、どうしてもマンネリ化しますからね。そこでサロンは誰のためのものという命題を問い直してみたいと思うのです。前提に会員相互の啓発・向上がありますが、参加者のニーズに合ったカリキュラムとなっているかどうか、原点に立って考えてみる必要がある。そのためにはニーズの収集、分析、検討が必要となる。会則に非政治的、非宗教的とあって制約がある上、サロンの採算を考えねばならず、改革・進化は大変難しい命題と思う。

濱野：私は年々、大きなテーマ、柱があって、それに各講座が沿っていく事が理想なのですが、16講座をそれに合わせる事は非常に難しいんです。ですから基調講演として、その大テーマを取り上げ、実施するだけになってしまう。一つのテーマを決め、それに合わせて講座を依頼すると、16講座は集まらなくなってサロンが出来なくなる。

立川：そうなんです。私のときは環境問題が将に取り上げられようとしている時で、「緑と環境」というグランドテーマでしたが、特別講話で「森林」の話はできても、我々ができるのは「カナダの自然」「ガーデニング」「椿の話」までで、それを他の講座に結びつけると難しく、こじつけになってしまいます。

濱野：我々の社会貢献の理念には「豊かな知識と経験を若者たちに伝えよう」その結果「住みよい町を創ろう」という想いがありますが、それをグランドテーマとして進めるのがいいと思うが、そのままでは聴く人は満足してくれない。今ならいじめの問題を取り上げてもと思うが、どうしても多くの人に聴いてもらえる具体的なテーマにしなければならない。それが本当に難しい。

石井：そのなかで7年8年と続けて我々もチャレンジしてきたが、聴く人と話し手が互いに相手を認め合って、同じ土俵で話し合うという、大野さんが火をつけたサロンの意味あいが、時と共に薄れてしまった。それにたいするチャレンジが宮崎さんのやった井戸端会議だったし、去年やったパネルディスカッションなんですよ。そして喋るだけではなく、身をもって体験してもらおうというのが、写真でありお茶であり絵手紙だったんですよ。

立川：ですからテーマを考えるのではなく講座の中身をどう捻っていくかが大切で、それでないとリピーターとしては楽しくないものになってしまう。

大野：私は一昨年から地域をテーマに取り組んでいるが、八王子のプロバスクラブだから地域の問題、生活の問題もテーマとして取り組んで貰いたいと思う。それで昨年は「魅力ある学園都市」のパネルをやったが、あれはパネラーの意見が噛み合わなかったが、市民にパネラーとして出席してもらうとか工夫すればよかったですね。

また以前は前半が講義形式で、後半がサロンとして話し合いの場を設けていましたが、それが無くなってしまいましたね。

立川：今は開講式と閉講式が全員集まるけれど教室スタイルで講師と向き合っているだけで、かろうじて閉講サロンの「さよならパーティ」と野外サロンしか顔を合わせる機会がなくなりましたね。これは画期的であるかも知れないが、デメリットがありますね。

濱野：でも当初の前半と後半に別けるやり方にデメリットがあって、今のように変えてきたんで、これは進化だったんですよ。

大野：全面的な改定だったからでしょうか。これは第12回で検討してもらいましょう。

会員の交流・活性化

司会：パスト会長さんがそれぞれ運営方針の中に「会員の交流・活性化」を掲げています。インフォーマルなグループ活動が会員の活性化に生かされています。これを最初に提唱された会長である石井さんに、その意図を伺いたいのですが。

石井：いや、私はサークルを認知しただけですよ。

司会：いや素晴らしい発想だったと思いますよ。

石井：初めは自然発生的に、ゴルフをやられるなら一緒に行かないか、というところから、仲間ができて、自然に愛好会が幾つか出来てきたので、それに事務連絡費の補助金を少し出して、プロバスとして認知していっただけですよ。

司会：しかしこのサークル活動が、学習サロンや野外研修など全員参加で進めるのに非常に役立っていますよ。

石井：確かにそうだけど、最近は例会よりもその方が盛んになって、サークルが一人歩きをしているように感じるな。それに例会の中で、同好会の報告があると、中味がサークルの中で伝達すれば済むことまでやっている。

立川：ゴルフや囲碁をやる人達は今度1泊で行こうなどと、すごく楽しんでやっていて良い事だけど、ゴルフも囲

碁もやらない、他に入るサークルもないと、浮いてしまっている人も居ると耳にしたことがあるが、余り例会でサークルを強く出されると、ちょっと反発があるんじゃないかな。サークルが各種いろいろ出来て、全員が何らかのサークルに入れるといいのだけれど、なかなかそうはいかないし。

大野：去年できた歴史の会は、ゴルフや囲碁をやらない人も、大勢の人が参加して楽しんでいるので、あれは非常に良かったんじゃないかと思うけど。それにこの会は、初めは歴史の研究会をやろうということで企画されたもので、サロンの目的である知的な総合研修・自己啓発の役割に通じるもので、非常に成功していると思っています。

立川：あれは大勢参加できて良かったですね。

他クラブとの交流

司会：どの年度も言葉の表現に違いはありますが他クラブとの交流が提唱されています。また立川さんが会長の年度には、全日本プロバス協議会に入会しました。当クラブがどのような交流ができるのか対外活動についてお話を伺います。

立川：昨年（H18年）の9月10日に第2回の全日本プロバスクラブ協議会の総会が尼崎で100人以上の参加をみまして、大変成功裏に終わりました。この全国のプロバスクラブの交流の状況は、西高東低で西の方が活発で、近畿ブロックと九州ブロックは交流が盛んで何回も行われている。それに対して東はそれ程でもない。私は関東ブロックの担当で13クラブの内10クラブを訪問しましたが、本当に地域に密着した活動を目指しているのが見えるんですね。

しかしここにきて、南関東でもやっと準備が整って神奈川県の4クラブ、川崎西・横須賀・横浜・鎌倉が集まって協議会を作り、最初に出来た横浜が幹事になって6月に発足すると、今朝電話がありました。

この様な動きから担当者としての私の夢は、関東でも代表者会議が出来たらと思っている。別の要請では10周年の行事などで是非来て欲しいとか、他クラブの活動の情報を皆が欲しがっている状況なので、その第一歩として近隣クラブから交流を始めたら良いのではと思っている。

全国レベルでの話に戻りますが、来年（H20年）の第3回総会は、いま旭川が手を挙げていて3月6日の代表者会議で、場所と日時が決まる予定です。さらに第4回（H22年）は京都が手を挙げ、そして第5回（H24年）は関東で開いて欲しいと云われています。これは１年おきのことで、まだ先の話ですが、近畿ブロックの大会は京都の時代祭りに合わせて開催し、今予約すれば桟敷が取れるなど観光を含めた楽しい企画をしていただいている。

当クラブも５周年では神戸（15人参加）を訪問し、10周年では京都（17人参加）に行ってきましたが、こう言った何かの機会に、全員ではなくても、大勢で出掛けて行って交流が出来れば、他のクラブの活動状況も判るし、当クラブ発展の為になる情報も得られるのではないかと思います。

ですから、私としては、担当者だけが出掛けて行くのではなく、いろいろな交流が当クラブの活動の一つとして加えていただけることを願っている。

それに関西の人達から八王子のホームページは素晴らしく充実していると、武田さんの努力が高い評価を頂いていますが、当クラブはそれだけに全国のクラブから注目されています。

また、他のクラブから見て、「八王子の生涯学習サロンは素晴らしいし、我々もやりたいが、我々にはあそこまでは出来ない」ととらえているようですね。

司会：生涯学習サロンが開かれるのは2月から5月ですが、準備は年度始めの7月からスタートしていますから、大変な作業を積み重ねて、やっと開催にこぎ着けているのです。

石井：他のクラブとの交流は、我々のクラブが成長発展するための、いわば研修の一つとしての位置づけではないのかな。友人を多くし、良い情報をもらって、自己啓発をしていくための交流。遠い地域との交流は費用もかかり大変なので、まずは近隣から始めるのがいいだろうね。

司会：それに交流によって、我々の「豊かな知識と経験を若者たちに伝えよう」「住みよい町を創ろう」という理念が認知され共有できれば、サロンの講師も他のクラブから派遣してもらうなど、支援協力をお願い出来るのではないでしょうか。

東京八王子南ロータリークラブとの交流

司会：南ロータリークラブとの交流については、なんらかの形で運営方針には取り上げられていますが、特に第4回と第5回については、かなり具体的な活動指針が提示されています。当時の活動とその後の展開についてはどうですか。

宮崎：私はこの会に入って2年目（H11年）に例会を担当して、第1回の南ロータリーとの交流ということで、このエルシィで夕食会をさせてもらいました。私どもはロータリーのことも何も知らないで、南ロータリーのプロバス担当の方と一緒になって、いろいろ助けてもらって、無事に会が出来ました。しかし学習サロンが忙しくなって、その後はその様な会は開けなくなりましたが、今あるような、気軽にロータリーさんが参加して下さる状況は良いのではないですか。

立川：私は南ロータリーには卓話で2回行きましたし、メーキャップにも気軽に行きます。

司会：相互理解の促進に沿った卓話ですね。

立川：南ロータリーとは親子の関係ですからね、特に会員同士の交流を企画しなくとも、ゴルフクラブなどを通じたりして親睦が図られていますし、個人的にも知り合いもあったりして、それに役員の方々は例会の時には、時間があれば気軽にお出でいただけるなどで交流は深まっていると思います。

濵野：この他クラブとの交流については、それぞれのクラブの成り立ちや目的に違いがあるので、それらをよく検討して、交流の仕方を考えて進めていけば良いと思います。

会員の増強について

司会：当クラブの会員数についてですが、いつも理事会で頭を痛めているのですが、当会の適正人員について、どのようにお考えですか。

石井：会員の増強というのは初年度から課題だったんですが、なぜ会の員数、全体のキャパシティを問題にするかと云えば、5周年（H12年）の時の学習サロンだったんです。たまたま朝日新聞が取り上げてくれて、サロンの参加希望者が多数あったんです。それで参加者は多ければ多いほどいいだろうと考えて、全員受付けてしまったんです。その結果、会場のスペースは広くしなければならないなど経費が増加して、大赤字になってしまった。また当会に入会したいという人がどっと来てしまった。これには随分苦労してお断りしたり、入会者を5人に絞ったんです。そうした経緯から学習サロンの人数や会員数を考えることになったんです。

年度当初の三役と委員会別の全会員との会合の席上で話し合って、会員数については、上限は70人が限度だろうとコンセンサスを得た。時とともに、前提条件も変わるから、変更するなら組織として、検討する必要がある。

立川：そう、野外研修で、バス1台に乗れる人数は、70人の70～80％の出席で考えたので、バス1台半の人数では困る。それで70人を暗黙の了解としたのです。だから今の67人は理想的なのです。

大高：またこれが55人を切るとまた苦しくなるんだな。私が幹事をしている時に50人ぎりぎりまで減ってしまったんです。

濵野：私が会員委員会のとき、この問題を考えていたら、大野会長が、話は見えなければいけない、テーブルの数が増えても、顔がみえる範囲の人数なら自ずから決まるだうと言われた。それでその時は50人を目標にしたのです。その後70という数が決まって今は、これは妥当だと思っています。

司会：そこで団塊の世代が定年を迎える2007年問題について話して下さい。

宮崎：私は来年から団塊の世代が定年で、大勢入会させてくれと来た時に、貴方たちは団塊の世代だから入れられないと言う訳にはいかない。私どもとしては70人を超えたらどうするかを今のうちから考えて置かなければならないと思うんです。

私はちょうど来年にその問題にぶつかる訳で、いま入って来る人たちは質も非常に良く、皆に溶け込んでよくやってくれている。そうであれば、我々としては、プロバスがここまでやって来たんだから、今一回り大きくなっても良いじゃないかと思うんです。

司会：今までは誰か居ませんかと募っていたのですが、それでしたらオーディションをやって選考する位のことをしても良いのではないですか。

大高：書類を出させてから断るのは大変なことですよ。それより書類を出す前から選考する方法を考えなくてはいけないでしょう。

宮崎：それだとクラブの発展性を考えると困るので、自然減もあるので補充は常にしていかなければならないし、難しいですね。

大野：いいクラブだったら自ずと規制できる筈です。生涯学習サロンをしているとその様なメリットもあるのです。ですから私は、会員は数で決めないで、質でよいと思っています。

立川：これは宮崎さんが会長になってからの課題ですね。

放談・今後のこと夢など

司会：最後に当クラブをどんな方向に発展させ、夢をふくらませて行ったらよいのか放談をしていただき、今後の運営に役立てればと思います。

濱野：私は、2007年問題は、会員増強のチャンスだと考えていましたが、最近では、そう簡単に職場を離れるのかなと疑問に思っています。有能な人が職場をパット離れるとこれは社会問題になっていますし、年金も遠のいて行くし、私の方針の中にある林住期に、60代で職場を辞めてすぐに移行する事はないのではないかと思うようになりました。

司会：八王子市内でも対象の人が6～7万人いるとか聞いていますが、当クラブが昨年入会しました市民活動協議会主催の「お父さんお帰りなさいパーティー」は団塊の世代を対象に企画されていますが、ある程度の収入も必要なようです。

濱野：聞いた話で、老人を遊ばせるには３Ｋが必要だとか。健康・経済・心（生きがい）で、当クラブは経済のお金でひっかかってしまう。ですからそれ程クラブとして心配しなくても良いのではないかと思う。

立川：その７万人居る中で、趣味に生きる人が何パーセントいるかですよ。そんなに多くはない筈です。

大高：60才で辞めたら年金が貰えるまで５年間働かなくてはならないでしょう。それで有能な人は再就職して、そうでない人が残る。それを当てには出来ないですね。

宮崎：ですから60才で急に来るのではなく、これから徐々に集まって来るはずで、クラブの認知度が上がれば自然に人材は来ますよ。また、これからのプロバスクラブを考えたとき、私どもは学習サロンで話し手側に居ますね。その場合、過去の知識経験だけの資料では済まされなくなっています。話し手をしながら切磋琢磨し、テーマを広げ深化させ一歩一歩進めていける人に入って貰わなければいけないと思う。先ほど大野前会長が云われたように、人数だけでなく、いかに良い質の人材を揃えていくかが大切だと思う。

大高：会長の職務については言えば、７月にスタートして９月に何が出来るかと言えば、方針を出して実行するまで時間が掛るので何も出来ない、すぐ追いかけて学習サロンが始まるので結局サロンだけになってしまう。ですから次の会長には、今から来期のことを準備してもらわなければならない。

濱野：そうなんです。任期１年の中で会長として遺り残した事が半年過ぎた段階でいくつかあります。それをどう年度内に達成するかが課題ですね。

宮崎：いやそれで、もうすぐにも先輩のお知恵をお借りして、準備に掛からなければいけない時期にきています。いろいろしわ寄せの来ている委員会の業務など改善しなくてはならないし。

大野：そう是非、総会の前には総ての準備が整っているように進めてみてください。

司会：今日は良い話を披露していただき、生涯学習サロンを初めいろいろな会の活動のありかたなど提言していただきました。時間が足りなくて語り尽くせないこともありましたが、会員の方も記事を読まれれば、当クラブの進むべき道をよくご理解頂けるのではないかと思います。本日はどうも有り難うございました。